分谷地（わけやち）A遺跡

胎内市記念物「史跡」　平成17年9月1日指定
新潟県有形文化財「考古資料」　平成15年3月28日指定

分谷地A遺跡調査風景（平成12年度 上段部の調査）

複式炉（縄文時代中期）

再葬墓（弥生時代前期～中期）

（平成13年度 下段部の調査）

朱漆塗り耳飾り出土状況（縄文時代後期）

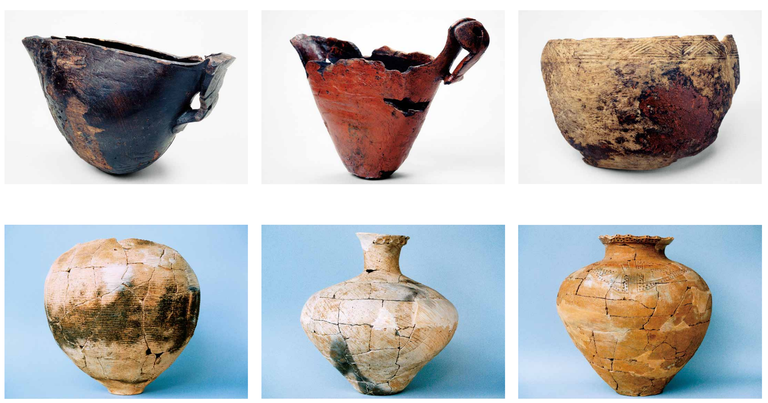
朱漆塗り鉢出土状況（縄文時代後期）

平成12年～13年に当時の黒川村教育委員会が実施した発掘調査で、胎内川河岸段丘上に営まれた縄文時代早期から弥生時代中期の大規模な集落遺跡であることが明らかになりました。遺跡からは縄文時代の石器や土器が多量に出土し、複式炉を備えた住居跡や墓、ハート形土偶、ヒスイ製品なども発見されました。

この遺跡で特徴的なことは、清水の周辺から縄文時代後期（約4,000年前）の漆塗り木製容器（注ぎ具・鉢・皿など）や、装身具（櫛・耳飾り・糸玉など）、さらに漆の精製に関する資料など約80点が発見されたことです。なかでも赤と黒のセットで発見された水差し形の注ぎ具と赤い鉢の漆器は、全国の縄文漆器の中でもトップクラスの優品であり、酒器としての機能を備えていた可能性もあり、注目されます。

また、弥生時代前期から中期では、日本最北端にあたる再葬墓群がみつかっています。再葬墓とは弥生時代の東日本を特徴づける墓制で、一度埋葬した死者の遺骨を集め、壷を主とする土器に納めて再び埋葬するものです。当地域での出土例は珍しく、在地系の壷の中に、東海地域の系統の壷もみられ、当時の交流を知る貴重な資料といえます。

このように縄文時代の木工や漆工芸の高い技術水準を示す漆製品21点と、弥生時代の葬送儀礼を知る上で重要な再葬墓壷形土器や甕・石器23点が新潟県の指定文化財となりました。


縄文時代漆塗り木製品
弥生時代再葬墓出土品

胎内市教育委員会